

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分  
 【発行日】令和 2 年 8 月 13 日 (2020.8.13)

【公表番号】特表 2018-511053 (P2018-511053A)  
 【公表日】平成 30 年 4 月 19 日 (2018.4.19)  
 【年通号数】公開・登録公報 2018-015  
 【出願番号】特願 2017-549731 (P2017-549731)  
 【国際特許分類】

G 0 1 N 33/70 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 7/10 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 33/70

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 7/10

【誤訳訂正書】

【提出日】令和 2 年 7 月 6 日 (2020.7.6)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 8】

本方法の一実施形態では、患者の G F R またはクレアチニークリアランスは、複数の時点で算定され、患者の G F R またはクレアチニークリアランスの適時平均値が算定され、1 又は 2 以上の極端な値又は異常値は適時平均値の算定から無視される。この目的のため、時系列をフィルタリングするメジアンフィルタを利用するのが良い。この方式により、患者のダイエットのばらつきに由来する測定値に対する影響を抑えることができる。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

腎代替療法を間欠的に受けている患者の糸球体濾過量または患者のクレアチニークリアランスを算定する方法 (100, 200) であって、前記方法は、治療セッションと次の治療セッションとの間の第 1 の時点で第 1 の血清クレアチニン濃度を測定することにより第 1 の血清クレアチニン濃度を算定するステップ (205) と前記治療セッションと前記次の治療セッションとの間の第 2 の時点で第 2 の血清クレアチニン濃度を測定することにより第 2 の血清クレアチニン濃度を算定するステップ (204) と、前記患者の除脂肪組織量を算定するステップ (102, 202) と、前記第 1 の時点と前記第 2 の時点との間の前記患者の体重増加を算定するステップと、前記患者の前記第 1 の血清クレアチニン濃度および前記第 2 の血清クレアチニン濃度および前記患者の前記除脂肪組織量そして前記患者の前記体重増加に基づいて前記患者の前記糸球体濾過量または前記患者の前記クレアチニークリアランスを算定するステップ (103, 206) とを含む、方法。

【請求項 2】

前記除脂肪組織量を算定する前記ステップは、前記除脂肪組織量を測定するステップを

含む、請求項 1 記載の方法。

【請求項 3】

前記除脂肪組織量を測定する前記ステップは、バイオインピーダンス測定を利用するステップ(112)を含む、請求項 2 記載の方法。

【請求項 4】

前記患者のバイオインピーダンス測定を利用することによって、体内総水分量を算定するステップ(201)を含み、前記患者の糸球体濾過量またはクレアチニークリアランスを算定する前記ステップは、前記患者の前記体内総水分量に基づく、請求項 1～3 のうちいずれかーに記載の方法。

【請求項 5】

クレアチニークリアランスが算定されるとき、クレアチニン生成量 G と、クレアチニークリアランス K、血清クレアチニン濃度 C は、以下の式で関連付けられ、

【数 1】

$$C = \frac{G}{K+Q} \cdot \left( 1 - \left( \frac{[V_0 + Q \cdot t]}{V_0} \right)^{\frac{1}{\alpha}} \right) + C_0 \cdot \left( \frac{[V_0 + Q \cdot t]}{V_0} \right)^{\frac{1}{\alpha}}$$

ここで、

【数 2】

$$\alpha = \frac{-Q}{K+Q}$$

であり、上式において V<sub>0</sub> は前記体内総水分量であり、Q は前記糸球体濾過量であり、Q・t は前記第 1 の時点と前記第 2 の時点との間における前記体重増加である、請求項 4 記載の方法。

【請求項 6】

前記患者の糸球体濾過量またはクレアチニークリアランスは、複数の時点で算定され、前記患者の糸球体濾過量またはクレアチニークリアランスの適時平均値が算定され、異常値は前記適時平均値の前記算定から無視される、請求項 1～5 のうちいずれかーに記載の方法。

【請求項 7】

前記方法は、コンピュータ実装された方法である、請求項 1～6 のうちいずれかーに記載の方法。

【請求項 8】

患者の糸球体濾過量または患者のクレアチニークリアランスを算定する器械(300)であって、前記器械は、治療セッションと次の治療セッションとの間の第 1 の時点と第 2 の時点とで前記患者の血清クレアチニン濃度を算定するよう構成された第 1 の算定ユニット(307)と、前記患者の除脂肪組織量を算定するよう構成された第 2 の算定ユニット(308)と、前記第 1 の時点と前記第 2 の時点との間の前記患者の体重増加を算定するよう構成された第 3 の算定ユニットと、前記患者の前記第 1 及び第 2 の血清クレアチニン濃度および前記患者の前記除脂肪組織量そして前記患者の前記体重増加に基づいて前記患者の前記糸球体濾過量または前記患者の前記クレアチニークリアランスを算定するよう構成された処理ユニット(306)とを有する、器械。

【請求項 9】

前記第 2 の算定ユニットは、前記除脂肪組織量を測定する測定ユニットを含みまたは該測定ユニットに連結されている、請求項 8 記載の器械。

【請求項 10】

前記除脂肪組織量を測定する前記測定ユニットは、バイオインピーダンス測定ユニット(317)を含む、請求項 9 記載の器械。

## 【請求項 1 1】

前記処理ユニット(306)は、前記患者の前記算定された糸球体濾過量またはクレアチニンクリアランスに基づいて利尿薬の処方箋のための基準を決定するよう構成されている、請求項 8 ~ 1 0 のうちいずれかーに記載の器械。

## 【請求項 1 2】

前記処理ユニット(306)は、前記患者の前記算定された糸球体濾過量またはクレアチニンクリアランスに基づいて腎代替療法を前記患者に適用するかどうかを決定するよう構成されている、請求項 8 ~ 1 1 のうちいずれかーに記載の器械。

## 【請求項 1 3】

患者のバイオインピーダンス測定を利用することによって体内総水分量を測定するためのバイオインピーダンス測定ユニット(317)を有し、前記処理ユニットは、前記患者の前記体内総水分量に基づいて前記患者の糸球体濾過量またはクレアチニンクリアランスを算定するよう構成されている、請求項 8 ~ 1 2 のうちいずれかーに記載の器械。

## 【請求項 1 4】

前記処理ユニットは、前記患者の糸球体濾過量またはクレアチニンクリアランスを次の公式

## 【数 3】

$$C = \frac{G}{K+Q} \cdot \left( 1 - \left( \frac{[V_0 + Q \cdot t]}{V_0} \right)^{\frac{1}{\alpha}} \right) + C_0 \cdot \left( \frac{[V_0 + Q \cdot t]}{V_0} \right)^{\frac{1}{\alpha}}$$

に基づいて算出し、ここで、

## 【数 4】

$$\alpha = \frac{-Q}{K+Q}$$

であり、上式において  $V_0$  は前記体内総水分量であり、 $Q$  は前記糸球体濾過量であり、 $Q \cdot t$  は前記第 1 の時点と前記第 2 の時点との間における前記体重増加である、請求項 1 3 に記載の器械。

## 【請求項 1 5】

命令を含むコンピュータプログラムであって、前記プログラムは、コンピュータによって実行されているときに前記コンピュータに請求項 7に記載の方法を実行させる、コンピュータプログラム。

## 【請求項 1 6】

請求項 1 5 に記載のコンピュータプログラムを記録したコンピュータ可読媒体。